

## 「北九州国際映画祭」 ご登壇ゲストの追加情報等について

令和5年12月13日～17日に開催する「北九州国際映画祭」の各企画にご登壇いただくゲストについて、追加のご登壇情報及び、プロフィールの詳細（ご登壇については発表済。プロフィール詳細は未発表）をお知らせいたします。

※ 全ゲストのご登壇情報及びプロフィール詳細は、本映画祭公式ホームページ中「イベント&ゲスト」のページに、企画毎に整理のうえ掲載いたします。

また、リリー・フランキー氏プロデュースによる特別応援動画の公開期日及び、ウェルカムセレモニーにおける注意事項について併せてお知らせいたします。

### 1 ウェルカムセレモニーご登壇ゲスト

#### (1) 山際千津枝（やまぎわ ちづえ）氏プロフィール

食をコミュニケーション・ツールとして考える料理研究家。その他、エッセイスト、テレビ・ラジオのコメンテーターとしても活動。

現在は博多阪急において2011年より地下食品販売部アドバイザーを務める。主な著書は『ヤマギワ流 100円おかずレシピ』（サンマーク出版）、『山際千津枝の幸福レシピ「おなかすいてない？」』（海鳥社）、アクロス福岡文化雑誌『ふるさとの食』（著者海海鳥社）など。FBS「めんたいワイド」にコメンテーターとして第一月曜日にレギュラー出演中。



#### (2) 熊篠慶彦（くましの よしひこ）氏プロフィール

特定非営利活動法人ノアール代表。1969年、神奈川県生まれ。出生時より脳性麻痺による四肢痙性麻痺がある。医療介護、性風俗産業など、さまざまな現場で障害者の性的幸福追求権が無視されている現状に突き当たり、ノアールを通して身体障害者のセクシュアリティに関する支援、啓発、情報発信、イベントなどを行っている。性的自助具の開発・実演、西欧・北米の視察など精力的な活動の傍ら、自身が企画・原案・製作に携わった映画『パーフェクト・レボリューション』（監督・脚本：松本准平、出演：リリー・フランキー、清野菜名ほか）が2017年秋、全国劇場公開。編著書に『身体障害者の性活動』（2012年、三輪書店）、著書に『たった5センチのハードル1969ー2017』（2017年、ロフトブックス）がある。



## 2 オープニング作品ご登壇ゲスト

### (1) 『ウィール・オブ・フェイト～映画『無法松の一生』をめぐる数奇な運命～』

#### ア 山崎エマ (やまざき えま) 監督プロフィール

ニューヨークと東京を拠点とするドキュメンタリー映像監督。日本人の心を持ちながら外国人の視点が理解できる立場を活かし、人間の葛藤や成功の姿を親密な距離で捉えるドキュメンタリー制作を目指す。

神戸生まれ。イギリス人の父と日本人の母を持つ。19歳で渡米しニューヨーク大学映画制作学部を卒業後、エディターとして携わった作品はHBO、PBS、CNNや世界中の映画祭で放送・上映された。

長編初監督作品『モンキービジネス:おさるのジョージ著者の大冒険』でクラウドファンディングで2000万円を集め、2017年ロサンゼルス映画祭でワールドプレミア。日本で2018年劇場公開。

長編2作品目の『甲子園：フィールド・オブ・ドリームス』では夏の甲子園100回大会を迎えた高校野球を社会の縮図として捉えた。2019年にアメリカ最高峰のドキュメンタリー映画祭DOCNYCでワールドプレミア。2020年米スポーツチャンネルESPNで放送し「New YorkTimesが選ぶ海外映画おすすめトップ5」にも選出。日本でも劇場公開。

その他、2019年にはNHK大河ドラマ『いだてん』の紀行番組を担当し、NHKの『ノーナレ』や『BS1スペシャル』も製作。2020年には戦中に製作された『無法松の一生』の裏話と、コロナ渦中の映画修復作業に密着したドキュメンタリー「ウィール・オブ・フェイト～映画『無法松の一生』をめぐる数奇な運命～」がベネチア映画祭と東京国際映画祭で上映。

最新長編作は日本のある1年間小学校に密着し、教育のあり方と現場の奮闘を見つめた作品『小学校～それは小さな社会～』。2023年秋の東京国際映画祭でワールドプレミア、2024年公開予定。



#### イ エリック・ニアリ氏プロフィール

米シネリック社の代表取締役、及びシネリック・クリエイティブ社長。新作劇映画、ドキュメンタリー、4K修復プロジェクトを多数企画・プロデュース。NYで育ちノースウェスタン大学で経済学を学んだ後、JETプログラム参加のため来日。慶応大学で日本語を学ぶ。その後、KADOKAWAとマーティン・スコセッシ監督の財団と4K修復プロジェクトを手がける。溝口健二監督『雨月物語』が2016年カンヌ映画祭で上映、『山椒大夫』『近松物語』が2017年ベネチア映画祭で上映。小津安二郎監督『晩春』を修復。

新作映画においてはイラン巨匠監督、アミール・ナデリと西島秀俊主演の話題作『CUT』(2012)。イタリア時代劇『Monte(山)』(2016)がベネチア国際映画祭で監督・ばんざい!賞を受賞。ドキュメンタリー映画『Ryuichi Sakamoto: CODA』(2017)がベネチア国際映画祭でプレミア上映され、報知映画賞、文化庁映画賞を受賞。コンサート映画『RYUICHI SAKAMOTO: async AT THE PARK ARMORY』が2018年ベルリン映画祭で上映された。



2020年にはNHKと国際共同制作の高校野球ドキュメンタリー『甲子園：ワールド・オブ・ドリームス』が米スポーツ局ESPNで放送され、日本で劇場公開。福永壮志監督の『AINUMOSIR』がトライベッカ映画祭のインターナショナル・ナラティブ・コンペティション部門にて“審査員特別賞”を受賞。日本で劇場公開され、アメリカなど英語圏ではネットフリックスで配信。

最近では福永監督の時代物「山女」がTAMA映画賞で最優秀新進監督賞と最優秀新進女優賞を受賞。坂本龍一の最後の演奏を記録したコンサート映画「Ryuichi Sakamoto | Opus」がベネチア国際映画祭でのワールドプレミア。

## ウ 宮島正弘（みやじま まさひろ）撮影監督プロフィール

1966年より大映京都撮影所技術撮影課入社、1982年に退職。以来、フリーを経て旧大映映像京都に入社し多くの撮影に携わった。

『影武者』（黒澤明 80）『瀬戸内少年野球団』（篠田正浩 84）等では宮川一夫撮影監督のチーフ助手、五社英雄監督の『226』（89）『陽炎』（91）等では森田富士郎撮影監督のチーフ助手も担当した。元大阪芸術大学映像学科客員教授、元日本映画撮影監督協会理事役員。

<4K修復監修作品>

『炎上』、『おとうと』、『雪之丞変化』（市川崑監督）、『雨月物語』、『山椒大夫』、『近松物語』、『赤線地帯』（溝口健二監督）、『刺青』（増村保造監督）、『浮草』（小津安二郎監督）、『無法松の一生』（稲垣浩）他



## 3 KIFFプレミアご登壇ゲスト

### (1) 『喜劇 愛妻物語』

#### ア 足立紳（あだち しん）監督プロフィール【ご登壇決定】

鳥取県出身。日本映画学校卒業後、相米慎二監督に師事。助監督、演劇活動を経てシナリオを書き始める。『百円の恋』（14）で第39回日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第17回菊島隆三賞受賞。『お盆の弟』（15）で第37回ヨコハマ映画祭脚本賞受賞。『14の夜』（16）で映画監督デビューを果たし、監督2作目の『喜劇 愛妻物語』（20）で東京国際映画祭コンペティション部門最優秀脚本賞、第42回ヨコハマ映画祭脚本賞を受賞。NHKドラマ「佐知とマユ」で第38回創作テレビドラマ大賞、第4回市川森一脚本賞受賞。

2023年監督作「雑魚どもよ、大志を抱け！」がTAMA映画賞最優秀作品賞受賞。その他の映画作品に「アンダードッグ」「嘘八百」など多数、テレビドラマに「拾われた男」（NHK ディズニー+）、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」など。



#### イ 足立晃子（あだち あきこ）氏プロフィール【ご登壇決定】

1976年東京都生まれ。成城大学映画研究部時代に足立紳と出会う。映画配給会社、某プロレス団体勤務後、2003年に足立紳と結婚。2023年足立紳最新作「雑魚どもよ、大志を抱け！」のプロデュースを手掛ける。



## ウ 森田真帆（もりた まほ）氏プロフィール【ご登壇決定】

1980年、東京生まれ。1998年に渡米。映画『007 ダイ・アナザー・デイ』などのメガホンをとった映画監督リー・タマホリのアシスタントとして、ドラマ「ソプラノズ 哀愁のマフィア」の制作現場に関わる。その後、ニューヨークからロサンゼルスに渡り、ウィル・スミスが代表を務めるウィル・スミス・エンタープライズにてインターン。北野武監督のロサンゼルスロケなどさまざまな映画製作の現場を経験。

現在は映画ライターとして活動しながら、ライフワークとして大分県別府市にある別府ブルーバード劇場の番組編成を務めているほか、同劇場の盛り上げ役として Beppu ブルーバード映画祭や十人十色映画祭など様々なイベントを企画している。書籍「崖っぷちのハリウッドライフ～まほのハリウッド日記」を発売中。

監督作品 ドキュメンタリー「十人十色の物語」。



## (2) 『デイス・マジック・モーメント』

### ア リム・カーワイ監督プロフィール【ご登壇決定】

1973年7月28日生まれ、マレーシア出身。大阪大学基礎工学部電気工学科卒業後、通信業界を経て北京電影学院監督コース卒業。卒業後、北京にて『アフター・オール・ディーズ・イヤーズ』(10)を自主制作し、長編デビュー。監督作品に『マジック&ロス』(10)、『新世界の夜明け』(11)、『Fly Me To Minami 恋するミナミ』(13)、中国全土で一般公開された商業映画『愛在深秋』(16)、バルカン半島で自主制作した『どこでもない、ここしかない』(18)、『いつか、どこかで』(19)など。大阪三部作の3作目となる『COME & GO カム・アンド・ゴー』(20)は、東京国際映画祭でも上映され大きな話題になった。

実在の映画監督渡辺紘文を主人公に、全国のミニシアターを行脚するロードムービー『あなたの微笑み』(22)は、日本に続き香港でも劇場公開が決まった。最新作となるバルカン半島3部作の完結編『すべて、至るところにある』は、2024年公開予定。

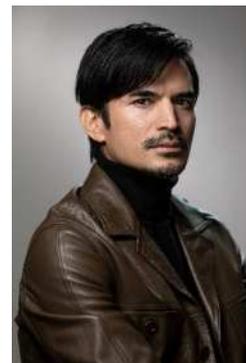
香港、大阪、中国、バルカン半島などで映画を製作、国籍や国境にとらわれない創作活動を続け、東京、大阪、台湾、ニューヨークのアート系劇場で特集を組まれるなど、その活動は国内外から注目されている。「2021 香港インディペンデント映画祭」主催者、「香港映画祭 2021/2022」キュレーター、香港映画『星くずの片隅で』(22/ラム・サム監督)の配給を手掛けるなど、映画監督以外にも活動の場を広げている。



## イ 尚玄（しょうげん）氏プロフィール【ご登壇決定】

沖縄県出身。2005年戦後の沖縄を描いた映画『ハブと拳骨』でデビュー。

2009年に渡米し、NYで本格的にリアリズム演技を学ぶ。現在は日本を拠点に邦画だけではなく海外の作品にも多数出演している。2021年に主演・プロデュースを務めた映画『義足のボクサー』（ブリランテ・メンドーサ監督）が、釜山国際映画祭にてキム・ジソク賞を受賞。2022年同映画祭でAsia Star Awardを受賞。2023年11月に沖縄で新しく開催された映画祭「Cinema at SEA-沖縄環太平洋国際フィルムフェスティバル」のアンバサダーも務める。



Ken Hirama

## (3) 『白塔の光』

### 近浦啓（ちかうら けい）監督プロフィール【ご登壇決定】

映画監督。2013年、短編映画『Empty House』で映画監督としてのキャリアをスタート。以降、『The Lasting Persimmon』、『SIGNATURE』の二本の短編映画を経て、2018年『コンプリシティ』で長編映画監督デビュー。『コンプリシティ』は、第43回トロント国際映画祭でのワールドプレミアを皮切りに、第23回釜山国際映画祭、第69回ベルリン国際映画祭など、多くの国際映画祭に選出され、日本では第19回東京フィルメックスで観客賞を受賞。2023年、長編第二作『大いなる不在（英題：GREAT ABSENCE）』が完成し、第48回トロント国際映画祭、第71回サン・セバスティアン国際映画祭、共にコンペティション部門にノミネートされる。サン・セバスティアン国際映画祭では、最優秀俳優賞（藤竜也）、アテネオ・ギブスコアノ賞のダブル受賞を果たす。映画『大いなる不在』は2024年日本劇場公開の予定。



写真：アライテツヤ

## (4) 『地上の詩』

近浦啓監督（プロフィールは上記参照）【ご登壇決定】

## (5) 『世界の終わりにはあまり期待しないで』

近浦啓監督（プロフィールは上記参照）【ご登壇決定】

## (6) 『ブリーティの花』

近浦啓監督（プロフィールは上記参照）【ご登壇決定】

## 4 青山真治監督追悼特集上映ご登壇ゲスト

### (1) 『Helpless』

#### ア 齊藤陽一郎 (さいとう よういちろう) 氏プロフィール

1994年篠原哲雄監督作品「YOUNG & FINE」のオーディションにて主演に抜擢され役者の道へ進む。青山真治監督作品「教科書にないッ！」に出演し、以降青山真治監督の殆どの作品に出演。同監督作品「Helpless」にてスクリーンデビューし「EUREKA」「サッド ヴァケイション」と北九州三部作に出演。「軒下のならず者みたいに」では主演を演じる。



#### イ 佐藤公美 (さとう くみ) 氏プロフィール

立教大学卒業後、助監督や製作デスクなどを経て、青山真治監督の映画デビュー作『Helpless』(96)で衣裳とスクリーンライターを担当。

以降、『チンピラ』(97)『WiLD LiFE』(96)『SHADY GROVE』(99)『EUREKA』(00)『月の砂漠』(01)ほかで、共同脚本・プロデューサー・スクリーンライターを務め多岐に渡り作品を支える。98年、ブランディッシュを設立。

主なプロデュース参加作に『路地へ 中上健次の残したフィルム』(01)『エリ・エリ・レマ・サバクタニ』(05)『ありがとう』(06/万田邦敏監督)『接吻』(08/同)『共喰い』(13)『南瓜とマヨネーズ』(17/富永昌敬監督)『生きてるだけで、愛』(18/関根光才監督)など。



#### ウ 仙頭武則 (せんとう たけのり) 氏プロフィール

1961生。カンヌ国際映画祭では『萌の朱雀』(97)、『M/OTHER』(99)、『EUREKA(ユリイカ)』(00)、『UNLOVED』(01)4作受賞はじめ全部門で多数招待。ベルリン『エレファント・ソング』(95)、『独立少年合唱団』(00)バンクーバー・大賞『この窓は君のもの』(94)、『ロカルノ』『豚の報い』(98)、『釜山』大賞『タイムレスメロディ』(99)、『ロッテルダム』大賞『まぶだち』(01)など12ヶ国の国際映画祭で100賞以上を受賞。新人発掘と邦画の国際化を先駆的に注力してきた。青山真治監督とは『Helpless』や『EUREKA』など7作品を生み出した。他に『リング/らせん』(98)、『五条零戦記』(00)、『私立探偵濱マイク(TVシリーズ)』(02)、『美しい夏キリシマ(キネマ旬報ベストテン一位)』(02)、『接吻』(08)、『はだかのゆめ』(22)等60作品以上。



### (2) 『EUREKA ユリイカ』

#### ア 齊藤陽一郎氏 (プロフィールは上記参照)

#### イ 佐藤公美氏 (プロフィールは上記参照)

#### ウ 仙頭武則氏 (プロフィールは上記参照)

### (3) 『サッド ヴァケイション』

#### ア 板谷由夏 (いたや ゆか) 氏プロフィール

1999年、映画「avec mon mari」に出演し、女優デビュー。その後、ドラマ「パーフェクトラブ!」を皮切りに、数多くのドラマ、映画に出演。2007年の第22回高崎映画祭では「サッド ヴァケイション」で最優秀助演女優賞を受賞した。役者としての活動以外では、2007年から「NEWS ZERO」に出演し、2018年までの11年間キャスターを務めた。また、映画の魅力伝える情報番組「映画工房」ではMCとして出演するなど、マルチに活躍。2児の母であるとともに、自身が立ち上げたファッションブランド「SINME」のディレクターも務める。



#### イ 斉藤陽一郎氏プロフィール (プロフィールは上記参照)

#### ウ 甲斐真樹 (かい なおき) 氏プロフィール

1965年生まれ、福岡県出身。96年青山真治監督作品『チンピラ』をプロデュース以降、『WiLD LiFe』『冷たい血』(共に97/青山真治監督)などを手掛けたのち、05年に株式会社スタイルジャムを設立。主な作品に『パピリオン山椒魚』(06/冨永昌敬)、『転々』(07/三木聡監督)、『サッド ヴァケイション』(07/青山真治監督)、『たみおのしあわせ』(08/岩松了監督)、『色即ぜねれいしょん』(09/田口トモロヲ監督)、『共喰い』(13/青山真治監督)、『南瓜とマヨネーズ』(17/冨永昌敬監督)、『生きてるだけで、愛。』(19/関根光才監督)、『ぜんぶ、ボクのせい』(22/松本優作監督)、『グッバイ・クルエル・ワールド』(22/大森立嗣監督)などがある。



### (4) 『東京公園』

#### ア 三宅唱 (みやけ しょう) 監督プロフィール

1984年生まれ。北海道出身。主な監督作に『ケイコ 目を澄ませて』、『きみの鳥はうたえる』、『密使と番人』など。最新作は『夜明けのすべて』(2024年2月全国劇場公開予定)。



#### イ 斉藤陽一郎氏 (プロフィールは上記参照)

#### ウ 佐藤公美氏 (プロフィールは上記参照)

## (5) 『共喰い』

### ア 光石研 (みついし けん) 氏プロフィール

1961年9月26日生まれ、福岡県出身。高校在学中に『博多っ子純情』(78)のオーディションを受け、主役に抜擢される。以後、冷徹なヤクザから良き父親役まで様々な役柄を演じ、映画やドラマ界では欠かせない存在として活躍。2016年には第37回ヨコハマ映画祭助演男優賞(映画『お盆の弟』(15)・『恋人たち』(15))、2019年には第15回コンフィデンスアワード・ドラマ賞 主演男優賞(「デザイナー 渋井直人の休日」(TX))を受賞。同年には出身地の北九州市より市民文化賞を受賞。近年の主な映画出演作は『青くて痛くて脆い』、『喜劇 愛妻物語』(20)、『バイプレイヤーズ～もしも100人の名脇役が映画を作ったら～』『浜の朝日の嘘つきどもと』、『由宇子の天秤』、『マイ・ダディ』(21)、『おそ松さん』、『やがて 海へ と届く』、『メタモルフォーゼの縁側』、『異動辞令は音楽隊!』(22)、『波紋』(23)など。



### イ 甲斐真樹氏 (プロフィールは上記参照)

### ウ とよた真帆 (とよた まほ) 氏プロフィール

1967年東京都生まれ 高校在学中にモデルデビューしパリコレクション等にも出演。1989年には女優デビュー以降多数のドラマや映画、舞台等に出演。また芸術の造詣が深く絵画の個展を開き京友禅の絵師として着物のデザインを手がける。家具などの木工、手芸もこなし、DIY番組を持つ等、趣味の域を超えた活動を展開。



## (6) 『空に住む』

### ア 高橋洋 (たかはし よう) 氏プロフィール

出身地：大阪府

#### 【舞台】

2020年 「藪原検校」[作：井上ひさし 演出：杉原邦生]

2022年 「フェルメール・ブルー」 演出：田尾下哲・保科由里子

#### 【映画】

2011年 「東京公園」

2020年 「無頼」

「空に住む」

Netflix「ゾン 100～ゾンビになるまでにしたい 100 のこと～」

「ゆとりですがなにか インターナショナル」

#### 【TV】

2023年 CX 「女神の教室」#8

NTV 「Dr.チョコレート」#9

YTV 「ブラックファミリア～新堂家の復讐～」



### イ 齊藤陽一郎氏プロフィール (プロフィールは上記参照)

## 5 北九州フィルム・コミッション支援作品上映会ご登壇ゲスト

### (1) 『Dear Kitakyushu』

#### ア デビッド・ビガンダー監督プロフィール

##### 【学歴】

バンコク大学、美術学士（コミュニケーション学）  
ニューヨーク市スクール・オブ・ビジュアル・アーツ  
タイの映画監督の演劇指導を受けた  
現在、チュラロンコン大学の大学院で演劇を勉強中

##### 【職歴】

広告動画ディレクター、動画ディレクター  
2015-2017：ディレクター、DOP ニューヨーク市  
2013-2015：アシスタントディレクター フリーランス  
2012-2013：アシスタントディレクター Mong Rama



#### イ オー・シンハー・サワッディー氏プロフィール

##### 【学歴】

チェンマイ大学 美術学士（彫刻）  
ネーション大学（タイ） 美術学士（コミュニケーション学）

##### 【職歴】

2008-2009：アートディレクター  
2009-2012：クリエイター（大道具、小道具）  
2011-2019：衣装、コプロデューサー、プロダクションマネージャー  
2019-2023：プロデューサー（フリーランス）



#### ウ マークシワット氏（令和5年11月29日にプロフィール発表済）

#### エ 植村颯太氏（令和5年11月29日にプロフィール発表済）

#### オ 中島美紀代（なかじま みきよ）氏プロフィール

在タイ19年

タイドラマ「愛しのエンジェル」

タイドラマ「Love Song Love series」

タイドラマ「diamond eyes2」

台湾ドラマ「網紅的瘋狂世界」

台湾版あすなろ白書「愛情白皮書」

アジアの作品を中心にグローバルに女優業を展開するとともにTBS朝の情報番組『THE TIME,』タイ特派員としてリポーターを務めるなどしている。



## カ 富永裕輔（とみなが ゆうすけ）氏プロフィール

早稲田大学アカペラサークル活動を経て、2007年「すずなり」でデビュー。

福岡ソフトバンクホークスの和田毅投手登場曲、NHK「みんなのうた」、NHK北九州放送局開局80周年事業「きたきゅうのうた」大賞曲、CMソング、教科書掲載曲、社歌、校歌等、タイアップ曲多数。

CROSSFMで毎週土曜日に「富永裕輔のなんでもゆうすけ！」のパーソナリティーを務める。

児童養護施設コンサート「ひまわりプロジェクト」クラウドファンディング実施中。



## 6 名画座セレクション作品上映会ご登壇ゲスト

### (1) 『プレイルーム』

ア 丸谷真一郎氏（令和5年11月17日にプロフィール発表済）

#### イ ナリオ監督プロフィール【ご登壇決定】

東京都出身。

2005年に映像制作会社・東京想舎を設立。

パンクロックを中心としたミュージック・ビデオを数多く手掛ける一方、テレビ番組、CM、ライブDVDなどでも幅広く演出の才を振るう。

2002年には映画『東京タワー』が劇場公開され、単館系シアターにて大ヒットを記録。続く短編映画『東京花火』はゆうばり国際映画祭、ショートショート・フィルム・フェスティバルなどの映画祭にて正式上映。

近年では音楽ドキュメンタリー映画『あっちゃん』が全国劇場公開、DVD発売され話題となる。



#### ウ 松蔭浩之（まつかげ ひろゆき）監督プロフィール【ご登壇決定】

1965年福岡県出身。現代美術家、写真家。

1988年大阪芸術大学写真学科卒業。1990年アートユニット「コンプレッソ・プラスティコ」でベネチア・ビエンナーレに世界最年少で選出される。以後、多くの内外個展やグループショー、国際芸術祭に参加。

写真作品を中心にインスタレーション、パフォーマンス、執筆、グラフィックデザイン、映画製作など多岐に渡って活動を続ける。美学校ではコースを受け持ち教壇に立つ。俳優としても金子雅和監督『アルビノの木』など数々の作品に出演。

映画作品は、画家の会田誠を主演に起用した『砂山』（2012）など



### (2) 『グッバイボーイ』

丸谷真一郎氏（令和5年11月17日にプロフィール発表済）

## その他連絡事項

### (1) リリー・フランキー氏プロデュースによる特別応援動画の公開期日

令和5年12月17日（日）まで

### (2) ウェルカムセレモニーにおける注意書き

小倉城天守閣前広場は一般の方もご利用される公共空間であり、八坂神社様との通路にもなっていますので、ウェルカムセレモニー会場周辺でのシート等による場所取りは禁止いたします。

シート等は事前に発見次第撤去いたします。(シート等の返却はいたしません)

(お問い合わせ先)

北九州国際映画祭実行委員会事務局  
市民文化スポーツ局文化企画課

担当：村田、堀池 電話：093-582-2389